

令和2年度シラバス（国語）

教科（科目）	国語総合	単位数	4	学年（コース）	2 学年
使用教科書	数研出版『新編国語総合』				
副教材等	尚文出版『国語必携パーフェクト演習』 浜島書店『常用漢字の1・2トライ』 数研出版『プレミアムカラー国語便覧』				

1 学習目標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

2 指導の重点

- ・国語を適切に表現し的確に理解する。
- ・言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。

3 指導計画

月	単元名	教材	学習内容	時間	評価方法
4	随想	川上弘美 「立ってくる春」	・筆者の感じたことを的確に読み取る。 ・随想を味わい「立ってくる春」について、それぞれイメージする。	4	漢字小テスト 定期考査 授業の取り組み
5	説話	『宇治拾遺物語』 「検非違使忠明」	・説話の面白さを味わいながら、話の展開を理解する。 ・歴史的仮名遣いに注意しながら声に出して読む。	6	
	詩	茨木のり子「六月」	・作品を音読し、リズムや響きを味わう。 ・詩に描かれた人々の生き方について自分なりに考えを深める。	3	
5	小説	芥川龍之介「羅生門」 (関連する古文・文学史)	・小説を読み、その楽しさを味わい、読書への意欲を高める。 ・登場人物の心情や行動を的確に読み取る。	15	漢字小テスト 定期考査 授業の取り組み
6	歌物語	『伊勢物語』 「芥川」「筒井筒」	・歌物語について理解し、文章のリズムを味わう。 ・古人の恋愛や当時の結婚について理解を深める。	10	
7	評論	中村明「語感トレーニング」	・筆者の考えを理解し、筆者の主張をつかむ。 ・筆者の述べることについて、自分自身のことや、自分の身近なことに引き寄せて考える。	8	漢字小テスト 定期考査 授業の取り組み
8	随筆	『徒然草』 「奥山に猫またといふものありて」	・古文の随筆について理解し、文章のリズムを味わう。 ・描かれている人物について理解し、筆者の主張を読み取る。	8	
9	小説	田宮虎彦 「沖縄の手記から」	・戦争文学について理解する。 ・小説の展開を理解し、人物の心の揺れを的確に読み取る	11	
10	思想	『論語』	・孔子の考え方を知り、学問のあり方や理想的な政治について考えを深める。 ・それぞれの思想の現代的な意義について考える。	8	漢字小テスト 定期考査 授業の取り組み
11	和歌	万葉集3首 古今和歌集3首 新古今和歌集3首	・和歌の韻律や内容について理解する。 ・歌に詠まれた情景や心情を読み味わう。 ・和歌の修辞法について理解する。	12	

11	随想	梶井厚志「『わらしべ長者』の経済学」	・筆者のものの見方や考え方を読み取り、自分の考えを深める。 ・「経済」について新たな発見を持ち、本文の内容について、自分の生き方を見つめながら、意見をまとめる。	10	
12	評論	佐藤信夫 「コインは円形か」	・筆者の主張を理解する。 ・自身の認識について改めて考える。	15	
1	史話	『十八史略』 「乱世の姦雄」 「水魚の交わり」 「赤壁の戦い」	・歴史物語への理解を深める。 ・登場人物の考えや心情について読み味わう。	15	
2					
3	小説	角田光代『旅する本』	・小説を読み、その楽しさを味わい、読書への意欲を高める。 ・登場人物の心情や行動を的確に読み取る。	15	

140時間（50分授業）

4 課題・提出物等

夏・冬・春休みの課題 ノート提出

5 評価基準と評価方法

関心・意欲・態度	思考・判断・表現・技能			知識・理解
関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
語や言語文化への関心を深め、国語を尊重し、進んで理解・表現し伝え合おうとしている。	・自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や場面に応じて筋道を立てて話したり、的確に聞き取ったりしている。	・自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じて、筋道を立てて適切に文章に書いている。	・自分の考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて様々な文章を的確に読み取ったり、読書に親しんでいる。	・表現と理解に役立てるための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身に付けている。
定期考査・提出物	定期考査	小テスト 作文	古典の読みテスト	定期考査 小テスト

6 学習の仕方（授業担当者より）

- ・家庭学習の時間を確保して漢字や言葉の意味等を予習してくることで、スムーズに授業に参加できるようにする。
- ・授業をしっかりと聴き、ノートを取り、教科書の内容を理解する。
- ・社会人として必要な、まとめた文章を読む・聞く・書く・話す力を養う。

令和2年度シラバス（地理歴史）

教科（科目）	地理歴史（地理A）	単位数	2	学年（コース）	2 学年（選択）
使用教科書	高等学校 新地理A 新詳高等地図 帝国書院編集部編			出版社	帝国書院 帝国書院
副教材等	第一学習社 改訂 最新地理図表GEO 三訂版				

1 学習目標

現代世界の地理的な諸課題について地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

2 指導の重点

基本的な事項・事柄を精選し、地図の活用を通して地理的技能を身につけることを目指す。
現代世界の動向に注目できるよう今日の課題を取り上げることを心がける。

3 指導計画

月	単元名（教材等）	学習内容	配 当 時間	評価方法
4	1 部 世界の諸地域の姿と地球的課題 1 章 地球儀や地図からとらえる現代世界 ○世界地図の活用・図法・緯度経度 ○世界各地の時差 5 ○日本の領域と領土問題 ○地形図の読図	オリエンテーション 現代世界の理解のために、世界地図を活用するための図法や時差を理解するとともに、主要国の位置を概観し日本の位置や排他的経済水域について知る。国土地理院発行地形図の読図技能を習得する。	1 1 2	小テスト ノート プリント提出
6	2 章 人間生活を取り巻く環境 1 節 人々の生活と地形 2 節 人々の生活と気候	世界の代表的な地形を把握し、プレートテクトニクスと地震の関係などに理解を深める。 気候の特徴を理解し、そこで暮らす人たちの生業・文化・宗教との関連を考察する。	1 0	期末考査 ノート プリント提出
7	3 章 世界の諸地域の生活文化 1 節 中国 2 節 韓国 3 節 東南アジア 4 節 南アジア 5 節 中央アジア・西アジア・北アフリカ 6 節 サハラ以南のアフリカ 7 節 ヨーロッパ 8 節 ロシア 9 節 アングロ・アメリカ 10 節 ラテンアメリカ 11 節 オーストラリア	世界の各地域の生活・文化・環境を学び、その地域の特徴を概観するとともに、日本との関係についても理解を深める。 日本とのつながりが深い、中国・韓国・米国を中心に生活・文化・環境を学び、日本との共通性や異質性について考えを深め、相互理解について展望する。	2 0	夏休み課題 (夏休み後提出)
9	4 章 地球規模で広がる課題 1 世界の人口問題 2 世界の食糧問題 3 世界の都市・住居問題 4 世界の資源・エネルギー問題 5 世界の環境問題 6 地球的課題の解決に向けて	地球的視野から人口、食料、資源エネルギー、居住・都市地球環境について大観し、どんな課題があるのか考察を深めるとともに、エネルギー自給率・食糧自給率を中心に日本および県内での関連問題について考察する。	1 4	中間テスト ノート プリント提出
10	第2部 身近な地域の課題 1 章 身近にあるさまざまな問題 1 さまざまな表現される主題図 2 一般図の利用 3 GISを用いた地図表現 2 章 日本の自然環境と防災 1 節 日本の自然環境 2 節 防災の取り組み 3 章 身近な地域の課題と地域調査	国土地理院発行の地形図を用い、身近な地域の諸課題を見いだす方地域調査の流れについて把握する。地域の課題と解決のための取組みについて興味のあるテーマを調べ、まとめる。 また、GISソフトや各種HPを、活用し、地域の自然環境や産業の理解を深めるとともに、ハザードマップ等も活用防災意識を高める。 東日本大震災について理解を深め、防災教育の一環とする。	8 5	期末考査 ノート プリント提出
11				学年末考査 プリント提出

4 課題・提出物等

計 70 時間（50 分授業）

授業ノート 課題プリントの提出 調査レポート

5 評価基準と評価方法

① 関心・意欲・態度	② 思考・判断・表現	③ 資料活用・技能	④ 知識・理解
世界の地形、気候、世界の人の暮らしについて興味・関心を持つ。	地球的課題の解決に向けて、世界的視野と環境条件をふまえて具体的に考察し、レポート等で表現することができる。	地理的資料から読み取った情報を整理し、文章や地図化することができる。文献や統計の分析から必要な地理情報を読み取ることができる。	世界の自然環境と産業・文化の差異を理解するとともに、環境問題資源エネルギー問題は地球的課題であり、地域により現れ方が異なっていることを理解し、その解決に向けての知識を身につけることができる。

6 学習の仕方（授業担当者より）

日々の授業を大切に、地図帳で地名等を確認しながら学習する。
新聞やニュースでも、世界の国々の様子に関心をもってほしい。（担当：池田孝一）

教科(科目)	地理歴史（日本史A）	単位数	2 単位	学年(コース)	2 学年(選択)
使用教科書	第一学習社『 高等学校 改訂版 日本史A 人・くらし・未来 』				
副 教 材 等	なし				

1 学習目標

近現代を中心とする我が国の歴史の展開を世界史的視野に立ち考察させることにより、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。

2 指導の重点

- ①我が国の歴史の展開を、諸外国との政治的な関係、経済・文化の接触・交流や地理的条件などと関連付け、世界の中の日本という視点から理解させる。
②基本的な事項・事柄を精選して指導内容を構成し、細かな事実・事柄には深入りしない。

3 学習計画

月	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	第1部 私たちの時代と歴史	・私たちの時代 ・私たちの身近なところから歴史を考えてみよう	・自分自身の経験と関連させながら、2000年(元暦)の社会のようすを理解する。・カレーライスを一歩の歩みめとして、日本人の食生活を時代背景と関連させながら理解する。そのほか、日常の暮らしのなかからテーマを設定してみる。	1	小テスト 課題提出 ノート提出
5	第2部 第1章 近代国家の形成と国際関係の推移	第1節 近代への前触 ①世まってくる外国船 ②ちからを蓄える庶民 ③近代思想のいばき ④船と幕藩体制	・江戸時代日本の対外関係について理解する。・近世後半の産業、教育や学問・思想などの発展について理解し、さらに、これらが近代文化の基盤となったことを理解する。・江戸時代後期の幕藩体制の動向と諸藩の改竊について理解する。	3	
6	第2章 明治維新	第2節 明治維新 ①黒船がやってきた ②志士たちの時代 ③手を結ぶ藩閥 ④近代との出会い ⑤江戸幕府が終わり新政府へ	・開国に至る経緯と、幕府の対応について理解する。・開国後の情勢について、幕府が弱体化した一連の流れを理解する。 ・幕末から明治初期の経緯・留学者の派遣、外国人の招聘により欧米文化が導入されたことを理解する。	5	
7	第3章 近代国家の確立	①江戸が東京になった ②天皇の軍隊がつくられた ③スローガンは「富国強兵」 ④欧米文化がはびこってきた ⑤日本の国勢が定まった ⑥爆発する農民や士族の不満 ⑦国会開設が決まった ⑧地主制が推し進められた ⑨立憲政治がはじまった ⑩国会がはじめて開かれた	・明治政府の初期の藩政によって、近代日本の基礎が形成されたことを理解する。・明治政府の中央集権化・藩閥専制の傾向に対し、自由民権運動がはじまり、国民の政治的関心が高まり憲法制定・国会開設に至る。一連の動きを理解する。 ・初期の外交政策は、欧米に対しては不平等条約の改正、一方、アジア諸国に対しては対等な態度で臨んだことを理解する。 ・この時期に、日本の領土が国際的に確定したことも理解する。	10	
8	第4章 国際関係の推移と近代産業の発展	①欧米と肩を並べる国をめざして ②清国との対立が深まった ③藩閥と政党が接近した ④ロシアとの戦争がおこった ⑤アジアへの勢力拡大がはじまる ⑥国民の生活が圧迫された ⑦綿糸と生糸を支えた産業革命 ⑧欧米の資本主義に仲間入りした ⑨貧富の差が広がった ⑩国家主義が台頭する ⑪教育が盛んになった ⑫教育が文化を花開かした	・明治前半では、条約改正が最大の外交課題であり、この克服をめざしては、国際情勢と国内情勢が密接な関係し、進められたことを理解する。・日清・日露戦争の経緯と結果、また、この戦争を経て、アジアに対して日本の勢力が拡張されたことを理解する。・日清・日露戦争の経緯において、政府が関与したことを理解する。また、日露戦争後の国民の負担や、政府による精神の圧迫について理解する。 ・日清・日露戦争の過程で、日本に産業革命がおこり、資本主義が確立したことを理解する。・資本主義の発展によって産業革命が変化し、これにより、都市における貧民問題や労働問題など、さまざまな社会問題が発生したことを理解する。 ・教育の普及、また、国民教育によって、教育政策や国家主義的思想がはびこった役割について理解する。 ・明治が学問と芸術の発展を遂げたこと、その背景として、外国人や留学生の存在についても理解する。	11	定期考査 課題提出
9	第5章 第二次世界大戦と日本	①民衆が政治を動かした ②最初の世界大戦に日本も参戦した ③成金の時代がやってきた ④朝鮮・中国の民衆が立ち上がった ⑤日本が欧米と歩調をあわせた ⑥「日清戦争」が爆発した ⑦日清戦争の解説をもとめて ⑧新しい文化とモダンな都市が生まれた ⑨学問と芸術・新風が吹く	・第一次大戦後、第二次大戦前までは、大正期における政治の展開について理解する。 ・第一次世界大戦に日本が参戦した意図、日本の外交方針の推移について理解する。・第一次世界大戦後、国際的に民族運動が高まったことについて理解する。第一次世界大戦が日本に与えた経済的影響について理解する。 ・大正期にさまざまな社会運動が活発になったこと、女性解放の動きもすすんだことを理解する。 ・大正デモクラシーの風潮が、あらたな学問・芸術を生み出したこと、都市の発展などを背景に大衆文化が発見したことを理解する。	8	
10	第6章 第二次世界大戦と日本	①民衆が政治を動かした ②最初の世界大戦に日本も参戦した ③成金の時代がやってきた ④朝鮮・中国の民衆が立ち上がった ⑤日本が欧米と歩調をあわせた ⑥「日清戦争」が爆発した ⑦日清戦争の解説をもとめて ⑧新しい文化とモダンな都市が生まれた ⑨学問と芸術・新風が吹く	・第二次世界大戦後の連合国による対日占領政策、民主化の憲法改正の内容について理解する。・日本国憲法について、その制定までの過程や内容の特徴を理解する。・戦後の憲法が国民生活の発展について理解する。・戦後の国民生活について、食料不足などの深刻な状況があったことを理解する。一方で、アメリカ文化をはじめとするあらたな文化がもたらした影響も理解する。・日本の経済復興の過程を理解する。・国際的な危機の回避により、日本が占領政策の転換からサンフランシスコ平和条約締結に至る経緯と背景について理解する。	9	小テスト 課題提出 ノート提出
11	第7章 現代の日本と世界	①占領軍がやってきた ②日本が生まれ変わる ③新しい国づくり ④戦後の生活の改善 ⑤戦後の生活の改善 ⑥戦後の生活の改善 ⑦戦後の生活の改善 ⑧戦後の生活の改善 ⑨戦後の生活の改善 ⑩戦後の生活の改善	・第二次世界大戦後の連合国による対日占領政策、民主化の憲法改正の内容について理解する。・日本国憲法について、その制定までの過程や内容の特徴を理解する。・戦後の憲法が国民生活の発展について理解する。・戦後の国民生活について、食料不足などの深刻な状況があったことを理解する。一方で、アメリカ文化をはじめとするあらたな文化がもたらした影響も理解する。・日本の経済復興の過程を理解する。・国際的な危機の回避により、日本が占領政策の転換からサンフランシスコ平和条約締結に至る経緯と背景について理解する。	7	
12	第8章 現代の日本と世界	①占領軍がやってきた ②日本が生まれ変わる ③新しい国づくり ④戦後の生活の改善 ⑤戦後の生活の改善 ⑥戦後の生活の改善 ⑦戦後の生活の改善 ⑧戦後の生活の改善 ⑨戦後の生活の改善 ⑩戦後の生活の改善	・第二次世界大戦後の連合国による対日占領政策、民主化の憲法改正の内容について理解する。・日本国憲法について、その制定までの過程や内容の特徴を理解する。・戦後の憲法が国民生活の発展について理解する。・戦後の国民生活について、食料不足などの深刻な状況があったことを理解する。一方で、アメリカ文化をはじめとするあらたな文化がもたらした影響も理解する。・日本の経済復興の過程を理解する。・国際的な危機の回避により、日本が占領政策の転換からサンフランシスコ平和条約締結に至る経緯と背景について理解する。	5	定期考査
1	第9章 現代の日本と世界	①占領軍がやってきた ②日本が生まれ変わる ③新しい国づくり ④戦後の生活の改善 ⑤戦後の生活の改善 ⑥戦後の生活の改善 ⑦戦後の生活の改善 ⑧戦後の生活の改善 ⑨戦後の生活の改善 ⑩戦後の生活の改善	・第二次世界大戦後の連合国による対日占領政策、民主化の憲法改正の内容について理解する。・日本国憲法について、その制定までの過程や内容の特徴を理解する。・戦後の憲法が国民生活の発展について理解する。・戦後の国民生活について、食料不足などの深刻な状況があったことを理解する。一方で、アメリカ文化をはじめとするあらたな文化がもたらした影響も理解する。・日本の経済復興の過程を理解する。・国際的な危機の回避により、日本が占領政策の転換からサンフランシスコ平和条約締結に至る経緯と背景について理解する。	8	
2	第10章 現代の日本と世界	①占領軍がやってきた ②日本が生まれ変わる ③新しい国づくり ④戦後の生活の改善 ⑤戦後の生活の改善 ⑥戦後の生活の改善 ⑦戦後の生活の改善 ⑧戦後の生活の改善 ⑨戦後の生活の改善 ⑩戦後の生活の改善	・第二次世界大戦後の連合国による対日占領政策、民主化の憲法改正の内容について理解する。・日本国憲法について、その制定までの過程や内容の特徴を理解する。・戦後の憲法が国民生活の発展について理解する。・戦後の国民生活について、食料不足などの深刻な状況があったことを理解する。一方で、アメリカ文化をはじめとするあらたな文化がもたらした影響も理解する。・日本の経済復興の過程を理解する。・国際的な危機の回避により、日本が占領政策の転換からサンフランシスコ平和条約締結に至る経緯と背景について理解する。	3	定期考査 課題提出
3	第11章 現代の日本と世界	①占領軍がやってきた ②日本が生まれ変わる ③新しい国づくり ④戦後の生活の改善 ⑤戦後の生活の改善 ⑥戦後の生活の改善 ⑦戦後の生活の改善 ⑧戦後の生活の改善 ⑨戦後の生活の改善 ⑩戦後の生活の改善	・第二次世界大戦後の連合国による対日占領政策、民主化の憲法改正の内容について理解する。・日本国憲法について、その制定までの過程や内容の特徴を理解する。・戦後の憲法が国民生活の発展について理解する。・戦後の国民生活について、食料不足などの深刻な状況があったことを理解する。一方で、アメリカ文化をはじめとするあらたな文化がもたらした影響も理解する。・日本の経済復興の過程を理解する。・国際的な危機の回避により、日本が占領政策の転換からサンフランシスコ平和条約締結に至る経緯と背景について理解する。	3	

計 70 時間（50 分授業）

4 課題・提出物等

ノートおよび課題(授業プリント・歴史人物レポート)

5 評価基準と評価方法

評価は次の観点から行います。				
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用	技能	知識・理解
近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開から課題を見だし、我が国の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を、世界史的視野に立ち多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開と生活・文化の地域的特色についての基本的事柄を理解し、その知識を身に付けている。	
授業態度、プリント、レポートへの取り組みの姿勢と内容、定期テスト、などから、総合的に評価します。				

6 担当者からの一言

近現代史に時間を多く振り分けるため、前近代史の内容については東アジアとの関わりを中心に絞りたいと思います。細かな事項・事柄に深入りせず、「歴史の流れ」の理解を大切にしたいと思います。また、日本に関わる現代の課題について、歴史的に考察できるようにしたいと思います。歴史が「苦手」「暗記」と思うことなく、さまざまなエピソードや歴史上の人物、事柄に積極的に興味をもって取り組んでほしいと思います。授業を真剣に聴き、興味をもって取り組むこと、わからないことはすぐに質問すること、が知識の定着につながります。（担当：佐藤 明）

令和2年度シラバス (数学)

教科 (科目)	数学 (数学Ⅰ)	単位数	2単位	学年 (コース)	2学年
使用教科書	『 第一学習社 新編数学Ⅰ 』				
副教材等	『 第一学習社 スタディ数学Ⅰ 』				

1 学習目標

2次関数、図形と計量及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 指導の重点

二次不等式の解の意味を理解させ、二次関数のグラフとx軸との位置関係から二次不等式の解を求めることができるようにするとともに、グラフを活用することのよさを認識させる。また、三角形の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。さらに、統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し、傾向を把握できるようにする。そして、単元ごとに課題学習を行い、身近な課題について主体的に学習し、数学のよさを認識させる。

3 学習計画

月	単元名 (教材等)	主要学習領域	学習内容	時間	評価方法
4 ～ 5	2章 2次関数	2次方程式・2次不等式	2次不等式	8	中間考査 期末考査 授業の取組み 課題等の提出物
		課題学習	旗の片付け	1	
5 ～ 12	3章 図形と計量	三角比	三角比	6	
			三角比の利用	4	
			鋭角の三角比の相互関係	6	
			鋭角の三角比	7	
		図形の計量	正弦定理	5	
			余弦定理	6	
			三角形の面積	5	
			正弦定理と余弦定理の利用	6	
		課題学習	直接測れない長さ	1	
12 ～ 3	5章 データの分析	データの分析	データの整理と代表値	2	
			四分位範囲	2	
			標準偏差	5	
			散布図	1	
			相関係数	4	
		課題学習	コンピュータによるデータの分析	1	

計 70時間 (50分授業)

4 課題・提出物等

長期休業中(春休み・夏休み・冬休み)には課題を出す。各学期において、随時ノートを提出させる。その他、授業中に小テストや演習課題などを課す。

5 評価規準と評価方法

①関心・意欲・態度	②数学的な見方や考え方	③数学的な技能	④知識・理解
数学的活動を通して、数学の考え方に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとしている。	数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ、論理的に考察するとともに、過程を振り返り多面的・発展的に考察し、表現できる。	事象を数学的に考察し、処理する仕方や推論の技能を身に付け、的確に問題を解決できる。	基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。
以上の観点を踏まえ、授業の取組(授業態度、問題演習など)、小テスト、自習課題、ノート等の提出物、長期休業中の課題の提出状況、定期テストなどから総合的に評価する。			

6 担当者からの一言

黒板に書かれたものをただノートに写すのではなく、どうしてそうなるのかを良く考える。また、教科書の問題だけで満足せず自らワークの問題に取り組み、わからない所はそのままではなく、担当教師に質問すること。

教科(科目)	理科(生物基礎)	単位数	4 単位	学年(コース)	2 学年(全 コース)
使用教科書	『高等学校 改訂 生物基礎』				
副教材等	なし				

1 学習目標

生物や生命現象に対する関心や探求心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探求する能力と態度を育てるとともに自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する。

2 指導の重点

生物に対する基礎的、基本的な知識にとどまらず、現代の生命科学の進歩や環境問題などの発展的な内容も取り扱い、生命の尊重や自然の保護などについて、科学的な観点に立つ正しい生命観を育てます。

3 学習計画

月	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	生物の特徴	多様性と共通性	・生物の特徴の1つである多様性と共通性について学習する。 ・細胞の構造と機能について学習し、理解を深める。	26	定期考査 小テスト 授業の取組 提出物
5	遺伝子とその働き	細胞とエネルギー	・エネルギーと代謝の関係性とATPについて学習し、理解を深める。	36	
6		遺伝子の本体の構造	・酵素の性質について学習し、理解を深める。 ・遺伝子の本体としてのDNAについて学習し、理解を深める。		
7		遺伝情報の複製と分配 遺伝情報とタンパク質の合成	・細胞周期の観察を通して、DNAの複製と分配について学習する。 ・遺伝情報がタンパク質の合成という形で現れる過程を学習し、理解を深める。 ・遺伝子はゲノムの一部であることを学習する。		
9	生物の体内環境	体液とその働き	・恒常性と体液の種類である血液、組織液、リンパ液について学習する。	38	定期考査 小テスト 授業の取組 提出物
10	植生の多様性と分布	体内環境の維持のしくみ	・心臓・腎臓(ろ過と再吸収)・肝臓などのはたらきを学習し、理解を深める。 ・自律神経とホルモンによる体内環境の調節のしくみを学習する。	20	
11		生体防御	・体液性免疫と細胞性免疫の違い、アレルギーについて学習し、理解を深める。		
12		植生と遷移	・アレルギーやエイズなど身近な免疫に関する疾患の生じるしくみを学習し、理解を深める。		
1		バイオームとその分布	・植生は、相観によって森林・草原・荒原に大別されることを学習する。 ・植生は不変ではなく、長期的には移り変わっていることを学習する。 ・気候条件の違いにより、さまざまなバイオームが成立する過程を学習し、世界や日本におけるバイオームの分布について理解を深める。		
2	生態系とその保全	生態系	・世界のバイオームの種類と分布を学習する。 ・日本におけるバイオームの水平分布と垂直分布と各バイオームの特徴的な植物種を学習する。 ・生態系の構成について学習する。 ・生態系におけるエネルギーの流れと物質の循環のしくみについて学習し、理解を深める。	20	定期考査 小テスト 授業の取組 提出物
		生態系のバランスと保全	・絶滅危惧種と人間活動との関係について学習し、理解を深める。 ・人間は、生態系からさまざまな恩恵を受けており、それを受け続けるためには生態系を保全する必要があることを学習し、理解を深める。		

4 課題・提出物等

- ・授業に沿ってノートをまとめ、考査ごとに提出します。期限を守って提出することが大切です。
- ・演習問題に取り組み、知識の定着を確認するための小テストを行います。

5 評価基準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
(関心・意欲・態度)	(思考・判断・表現)	(技能)	(知識・理解)
自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
以上の観点を踏まえ、 ・授業の取組(授業態度、学習活動への参加状況など) ・ノートや提出物などの内容 ・小テスト ・定期テスト などから、総合的に評価します。			

6 担当者からの一言

生物は身近な存在です。なにより、我々人間が生物です。授業に集中することはもちろんですが、生物に興味をもって学習に臨むことが大切です。板書をそのまま写すだけでなく、教科書を読み、自分でまとめてみましょう。

(担当：岡田)

令和 2 年度シラバス (保健体育)

教科（科目）	保健体育(体育)	単位数	2	学年（コース）	2 学年
使用教科書	現代保健体育			出版社	大修館書店
副教材等	アクティブ・スポーツ（ルールブック）				

1 学習目標

運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。

2 指導の重点

各種の運動の合理的な実践を通して、
 ① 運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。
 ② 体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育てる。
 ③ 生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。
 ④ 基本的生活習慣と社会のルール、マナーの遵守ができる生徒の育成に努め、その定着を図る。

3 指導計画

月	単元名 (教材等)	主要学習領域	学習内容	配当時間	評価方法
4	体づくり運動		・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動	8 時間	評価基準と評価方法の観点 をふまえて、 各学習内容についてそれぞれ評価する。
5 6	選択① ・陸上競技 (跳躍) ・器械運動		・走幅跳 ・マット運動	11 時間	
7 8 9	選択② ・陸上競技 (投てき) ・器械運動		・円盤投 ・跳び箱	11 時間	
9 10	陸上競技		・持久走	8 時間	
11 12	選択③ ・球技ゴール型 ・球技ベースボール型 ・球技ネット型 ・武道		・サッカー ・ソフトボール ・バレーボール ・柔道	13 時間	
12	体育理論		2 単元運動スポーツの学び方	6 時間	
1 2	選択③ ・球技ゴール型 ・球技ネット型 ・球技ネット型 ・武道		・バスケットボール ・バドミントン ・バレーボール ・柔道	13 時間	

計 70 時間 (50 分授業)

4 課題・提出物等

身体的理由により、運動が制限される生徒に対しては、レポート作成を指導する。

5 評価基準と評価方法

①関心・意欲・態度	②思考・判断	③運動の技能	④知識・理解
運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に運動をしようとしている。	生涯の豊かなスポーツライフの実現を目指して、個人の課題に応じた運動を継続するために取り組む方を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じた技能を高め、各領域で段階的な技能を身に付けている。	生活における運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し、知識を身に付けている。

以上の観点をふまえ、総合的に評価します。

① 関心・意欲・態度 30% ②思考・判断 20% ③技能・表現 30% ④知識・理解 20%

6 学習の仕方 (授業担当者より)

・集団行動を身につけ、約束やきまりを守って活動できるように指導する。
 ・担当教諭の指示をしっかりと把握し、安全に留意しながら仲間と協力して活動すること。

令和 2 年度シラバス (保健体育)

教科 (科目)	保健体育 (保健)	単位数	1	学年 (コース)	2 学年
使用教科書	現代保健体育			出版社	大修館書店
副教材等	保健学習ノート				

1 学習目標

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。

2 指導の重点

- ① 健康の大切さや体の発育・発達などの基礎的・基本的な事項が理解できるようにする。
- ② 健康的なライフスタイルを確立する。
- ③ 深刻化する健康・安全に関する新たな課題等に対応する。
- ④ 心の健康の保持増進に関する理解を図る。

3 指導計画

月	単元名 (教材等)	主要学習領域	学習内容	配当時間	評価方法
4 ～ 7	2 単元 生涯を通じる健康		・思春期と健康 ・性意識と性行動の選択 ・結婚生活と健康 ・妊娠・出産と健康 ・家族計画と人工妊娠中絶 ・加齢と健康 ・高齢者のための社会的取組み	1 1 時間	・定期テスト ・授業への取り組み方
9 ～ 11	2 単元 生涯を通じる健康		・保健制度とその活用 ・医療制度とその活用 ・医薬品と健康 ・さまざまな保健活動や対策	1 4 時間	・学習ノートの提出 ・レポートの提出
	3 単元 社会生活と健康		・大気汚染と健康 ・水質汚濁・土壌汚染と健康 ・健康被害の防止と環境対策 ・環境衛生活動のしくみと働き		
12 ～ 2	3 単元 社会生活と健康		・食品衛生活動のしくみと働き ・食品と環境の保健と私たち ・働くことと健康 ・労働災害と健康 ・健康的な職業生活	1 0 時間	

計 35 時間 (50 分授業)

4 課題・提出物等

定期的に学習ノートを提出させる。

5 評価規準と評価方法

①関心・意欲・態度	②思考・判断	③知識・理解
個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関心をもち、自ら健康で安全な生活を実践するため、意欲的に学習に取り組もうとしている。	個人生活や社会生活における心身の健康や安全に関する課題の解決を目指し、適切な意思決定を行い、選択すべき行動を適切に判断している。	健康・安全の意義を理解するとともに、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。
以上の観点をふまえ、総合的に評価する。		

6 学習の仕方 (授業担当者より)

「保健」については、現代社会における健康や文化に応じて、多様な健康への対策や健康の保持増進のための選択ができるように学習を進めていきます。

令和2年度シラバス (外国語)

学番 69 新潟県立高田農業高等学校

科 目	コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	2単位	学年	2学年
使用教科書	『VISTA English Communication Ⅱ』 (三省堂)				
副教材	『エースクラウン英和辞典』『VISTAWorkbook』 (三省堂) 『フレーズで英単語3000』『フレーズで英単語3000 WORKBOOK I』 (浜島書店)				

1. 学習目標

幅広い題材を通して英語で聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える能力をさらに伸ばすとともに、自分の意見や考えを積極的に伝えようとする態度を育成する。

2. 指導の重点

- ① 英語Ⅰでの学習内容をふまえ、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能をさらに伸ばす。
- ② 教科書の題材を通して、異文化を理解しようとする心や社会への関心、自身・自国への関心を高める。
- ③ 場面や目的に応じて、自分自身の考えや思いを適切に表現する能力を養う。
- ④ 英語学習に対する積極的な態度を養う。

3. 学習計画

学期	単元	内容	時数	評価の観点・備考
1	オリエンテーション	授業の進め方等説明	1	
	Lesson 1: Birthdays, Here and There	3つの国の誕生日の祝い方を知る。 ○疑問詞 ○if節	9	ワークブック 音読、授業態度
	Lesson 2: The Emerald Isle	アイルランドの言語や文化、日本との共通点を知る。 ○原級・比較級	10	確認テスト 提出物
	単語テスト (5回)	英単語、熟語、和訳 (20点満点)		
	ワークシート (3回)	沖縄文化について知る。	3	
	中間考査・期末考査		4	定期考査
2	Lesson 3: The Sagrada Familia	スペインにあるサグラダ・ファミリアについて学び、その歴史と建築について知る。 ○名詞を修飾する過去分詞・現在分詞	11	ワークブック 音読、授業態度
	Lesson 4: Nobel Prize Episodes	国際的権威のある賞の1つ、ノーベル賞についてのこぼれ話を知って関心を深める。 ○知覚動詞 ○tell ~ to do	11	確認テスト 提出物
	単語テスト (7回)	英単語、熟語、和訳 (20点満点)		
	中間考査・期末考査		4	定期考査
3	Lesson 5: Flowers in the Tomb	ハワード・カーターがツタンカーメンの墓で最も美しいと思ったのは何だったかを知り、その理由を考える。 ○使役動詞 ○関係代名詞what	12	1・2学期と同様
	ワークシート (2回)	受け身の表現	3	
	学年末考査		2	定期考査

計 70 時間 (50 分授業)

4. 課題・提出物等

- ・学期毎にワークブック・ノート点を点検します。各Lessonで配付されたプリントを必ずファイルにとじてください。
- ・長期休業中に課題を出します。必ず提出期限を守って提出しましょう。

5. 評価基準と評価方法

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	各レッスンの文法事項を使いながら、日常的な話題について情報や考えなど伝えたいことを話したり書いたりする。	英語を読んだり聞いたりして情報や内容について大切な部分を整理して理解することができる。	幅広い話題についての英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけると共に、その背景にある文化などを理解している。
以上の観点をふまえ、 ・授業の取組 (授業態度、学習活動への参加状況など) ・提出物 (ワークブック、ノート、課題等) の内容 ・小テスト (確認テスト、単語テスト) ・定期テスト などから、総合的に評価します。			

教科(科目)	家庭（家庭総合）	単位数	2単位	学年(コース)	2学年全員
使用教科書	東京書籍 『家庭総合』				
副教材等	なし				

1 学習目標

人の一生と家族、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、衣生活に関する知識と技術を学習し、生活課題を主体的に解決し、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

2 指導の重点

- ・家庭生活に必要な情報や資料などに興味・関心を持ち、生活をよりよくしようとする意識を育てます。
- ・自立した生活ができるように手や体を動かす実験・実習を重視します。特に被服製作では、3年次に実習で着用するエプロンを、自分の力で計画的に完成させることを目指します。

3 学習計画

月	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 5 6	1章 自分らしい人生をつくる	・家庭科の学び方、生活に活かそう～ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動～ ・青年期の課題 ・目標を持って生きる ・家族・家庭を見つめる ・これからの家庭生活と社会	・ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の意味と進め方について理解し、家庭科の学習を生活に生かし、地域に広げることを理解する。 ・各ライフステージの特徴と課題を理解する。 ・男女が相互に協力して家庭を築くことの重要性を理解し、家庭生活の在り方について考える。	18	定期テスト 授業の取り組み 提出物
7 9 10	7章 衣生活をつくる	・被服の役割を考える ・被服を入手する ・被服を管理する ・被服を作る ・これからの衣生活	・被服の様々な役割や被服材料の特徴を理解し、取り扱い表示などの意味を知る。 ・汚れの仕組みを理解し、被服に適した洗濯や保管方法を知る。 ・製作の基本を理解し、被服製作ができる。	24	定期テスト 授業の取り組み 提出物
11 12 1	2章 子どもと共に育つ	・生命を育む ・子どもの育つ力を知る ・親として共に育つ ・これからの保育環境	・子どもの発達の様子および発達段階を知り理解を深める。 ・人生の初期における親・家族の関わり大切さを理解する。 ・子どもを取り巻く社会変化の現状について理解し、考える。 ・児童福祉の理念を理解し、子育て支援の在り方について考える。	20	定期テスト 授業の取り組み 提出物
2 3	5章 経済生活を営む	・職業生活を設計する ・計画的に使う ・現代の消費社会 ・消費者の権利と責任 ・これからの消費生活と環境	・経済的自立と職業について主体的に考える必要性を理解する。 ・契約や消費者信用などを学習し、適切な判断ができるようにする。 ・国際化・複雑化している経済社会と家計の関係を理解する。 ・環境に関わる生活の仕方を点検し、自分の消費行動を検証する。	8	定期テスト 授業の取り組み 提出物

計 70 時間 (50分授業)

4 課題・提出物等

学習ノート、実験・実習レポート、実習製作作品

5 評価基準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・生活への関心興味を持ち、安全で快適な生活について考えようとしている。 ・被服や保育環境に関心を持ち、家族・家庭と社会との関わりについて考えようとしている。	・生活上の課題を見だし、それを解決する方法を具体的に表現している。 ・自分を見つめ、自分の人生や進路について考えを深めている。	・安全に配慮し、実習を行っている。 ・生活に役立つ情報を収集・整理し、調査・検討することができる。 ・生活に必要な基礎的な技術を身に付けている。	・自分らしく生きるための目標を持ち、生活課題に対応した意思決定を自分で行うことの大切さや考え方を理解している。家庭生活や健康に関する正しい知識を身に付けている。
以上の観点を踏まえ、 ・授業の取組（授業態度、学習活動への参加状況など） ・提出物の内容 ・製作した作品 ・定期テスト などから総合的に評価します。			

6 担当者からの一言

授業態度を重視します。欠席や遅刻、忘れ物をせず、望ましい態度で授業に臨んで下さい。
エプロンや課題プリント、ファイル等の提出物は期日を厳守してください。
身の回りの事柄に関心や課題意識を持ち、自分や家族の生活をよりよくする力を身につけて下さい。
(担当： 藤塚陽子)